

令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果について

大台町教育委員会

令和6年4月18日に、小学校第6学年及び中学校第3学年を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果の概要について、以下の通りまとめました。

結果の公表については、保護者・地域の皆様に学校教育と家庭教育についてのご理解・ご協力を得ることが何よりも大切であると考え、教科に関する結果、学力の背景となっている児童・生徒質問紙調査から見られた本町の児童・生徒の好ましい傾向と教育課題、そして今後の取組についてお示しさせていただきます。

教科に関する調査結果の概要

教科に関する調査は、中学校では国語・数学の2教科で実施され、大台町立中学校第3学年の生徒55名が参加しました。調査結果については、中学校では生徒はよくがんばり、国語において、全国平均正答率より高い傾向にあり、数学において、全国平均正答率より低い傾向にありました。

以下に、調査結果から「おおむね理解している問題」と「課題がみられた問題」についてまとめました。

【中学校 国語】

〈おおむね理解している問題〉

◇行書の特徴を理解しているかどうかをみる問題

- ・行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものとして適切なものを選択する。 [4三] (正答率：約9割)

〈課題がみられた問題〉

◆表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができるかどうかをみる問題

- ・表現を工夫して物語の最後の場面を書き、工夫した表現の効果を説明する。 [3四] (正答率：約4割)

大問3四

紙の辞書を登場人物とした物語の結末を、「次の出番への期待」という心情が伝わるように工夫して書く。その際、次のア、イの指示に従う。

ア：「あの日から数日が過ぎた。」に続けて表現を工夫して書きなさい。

イ：あなたがアで書いた表現には、どのような効果があるのかを具体的に書きなさい。

【書くこと】

課題がみられた問題

〔物語の下書き〕

- ① あの日も僕は、君の部屋の本棚の隅でじっと待っていた。ほこりだらけになりながら。中学生になってから、君はオンライン辞書を使うようになった。以前はよく、印を付けたリ、書き込みをしたりしてくれていた。君との距離は、ずいぶん遠くなってしまった。
- ② インターネットだと、複数の辞書にアクセスできるから、タブレット端末だけを持ち運べばよい。単語さえ入力すれば、すぐに知りたいことを教えてくれるし、かさばらないし。君にとっては、とても便利なのだろう。僕なんて、このまま忘れられてしまうのかな。
- ③ そう考えていたとき、君は僕を手を取った。学校にタブレットを置いてきたのだろうか。久しぶりだったから、僕はびっくりし、君はほこりで大きくしゃみをした。ほこりだらけの僕に顔をしかめたけれど、何度かページを繰っては、いろいろな言葉の意味を調べていた。当然、いつもよりは時間がかかっている。調べなければならぬ言葉だけでなく、近くにある言葉にも線を引き、意味を確認する君。意味調べが終わっても、君は僕をいつもの場所に戻さなかった。しばらくページを繰り、小学生のときに印を付けた言葉や書き込んだ言葉を読み返していた。君はみちたりの表情をしていた。僕は自分が認められたような気がした。
- ④ あの日から数日が過ぎた。

イ

ア

あの日から数日が過ぎた。

正答率：38.2%

〔R6全国学力学習状況調査 中学校国語〕より

解答の分析

無解答率 18.2%

| | |
|---------------------------|---|
| 正答例 〈正答率 38.2%〉 | ア 窓から差し込む光を浴びながら、今日も僕はいつもの場所で君を待っている。 イ 「窓から差し込む光を浴びながら」のように情景を描写することで「僕」の期待感が印象的に伝わる。 |
| 誤答例 〈36.4%〉 | ア ぼくはまた本棚にしまわれた。でも、今度は君と近い距離。また使われる日を待っている。 イ 久しぶりに使ったよさに「君」が気づき、「僕」を近くにおいてくれたことを表現した。 |

○誤答例の解説
 このように解答した生徒は、「あの日から数日が過ぎた。」に適切に続くように表現を工夫して物語の最後の場面を書くことができています。一方で、自分が工夫した表現について、どのような効果があるのかを書くことができていないと考えられる。

<今後の学習の手立て>

「自分の伝えたいことが伝わるように、表現の効果を考えて工夫して書くことを大切に」

用いた語句や表現が、文章の内容を伝えたり印象付けたりする上で、どのように働いているか確かめながらより効果的な語句や表現を選ぶことが重要です。自分が読み手に伝えたいことを明確にし、そのねらいに応じた表現の工夫ができていないか説明したり、確かめたりする学習活動を大切にしていきたいと思います。

「R6年度【中学校国語】調査問題」



【中学校 数学】

<おおむね理解している問題>

◇問題場面における考察の対象を明確にとらえ、正の数と負の数の加法の計算ができるかどうかをみる問題

- ・正三角形の各頂点に○を、各辺に□をかいた図において、○に3、-5を入れるとき、その和である□に入る整数を求める。

〔 6 (1) 〕 (正答率：約9割)

<課題がみられた問題>

◆事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる問題

- ・18Lの灯油を使いきるまでの「強」の場合と「弱」の場合のストーブの使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める方法を、式やグラフを用いて説明する問題

〔 8 (2) 〕 (正答率：約1割)

大問8(2)

ストーブの使用時間と灯油の残量から、ストーブを使用し始めてから18Lの灯油を使い切るまでの「強」の場合と「弱」の場合の使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める方法をグラフや式を用いて説明する。

ア・・・「強」の場合の式 $y = -4x + 18$ と「弱」の場合の式 $y = -2.5x + 18$

イ・・・「強」の場合のグラフと「弱」の場合のグラフ

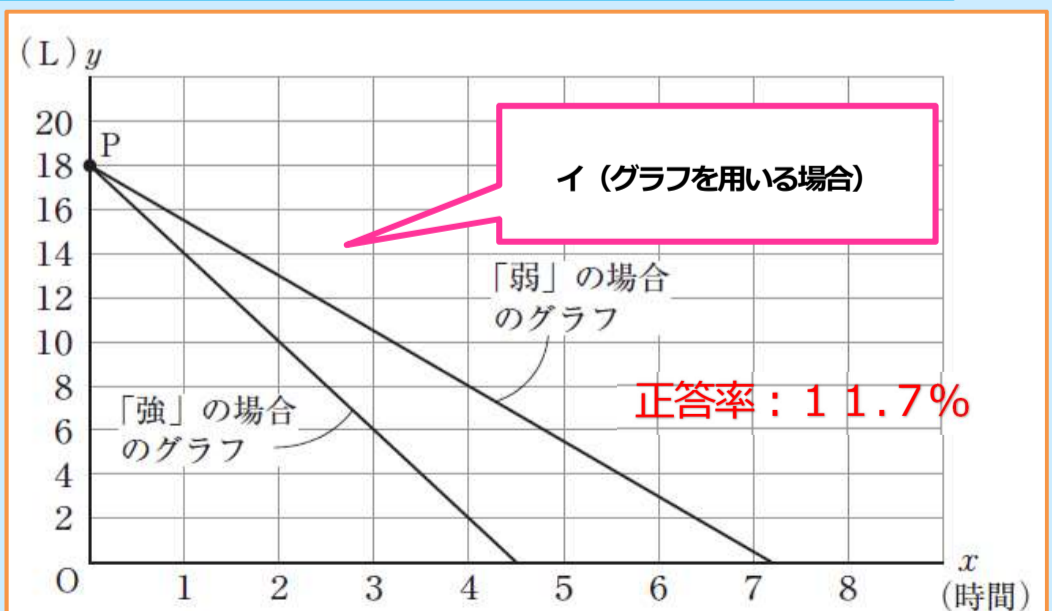
【関数】

【ストーブの使用時間と灯油の残量】

ア (式を用いる場合)

「強」の場合の式 $y = -4x + 18$
 「弱」の場合の式 $y = -2.5x + 18$

「R6全国学力学習状況調査 中学校数学」より



課題がみられた問題

解答の分析

無解答率 32.1%

| | ア (式を用いる場合) | イ (グラフを用いる場合) |
|---|---|---|
| 正答例 〈正答率〉 ア 8.9% イ 1.8% | 「強」の場合の式と「弱」の場合の式について、それぞれの式に $y=0$ を代入し、 x の値の差を求める。 [正答の条件] (a) 「強」の場合の式と「弱」の場合の式に $y=0$ を代入すること (b) 上記 (a) に対応する x の値の差を求めること 上記 (a) (b) について記述しているもの | 「強」の場合のグラフと「弱」の場合のグラフについて、 y の値が 0 のときの x の値の差を求める。 「強」の場合のグラフと「弱」の場合のグラフについて、 y の値が 0 のときの 2 点間の距離を読み取る。 [正答の条件] (c) 「強」の場合のグラフと「弱」の場合のグラフの y の値が 0 である点に着目すること (d) 上記 (c) に対応する x の値の差を求めること (e) 上記 (c) に対応する 2 点間の距離を読み取ること 上記 (c) (d) または (c) (e) について記述しているもの |
| 誤答例 ア 1.8% イ 1.8% | 2 つの式に 0 を代入して、 x の値を求める。 2 つの式から x の値の差を求める。 2 つの式を使って考える。 | 2 つのグラフの y の値が 0 の時を求める。 2 つのグラフの x の値の差を求める。 |
| ○誤答例の解説 試行の過程を的確に表現したり、考えたことを数学的な表現を用いて説明したりすることに課題があると考えられます。 | | |

<今後の学習の手立て>

「表、式、グラフなど数学的な表現を使って説明する学習の機会を大切に」

表、式、グラフなどを用いて問題解決する場面を設定し、それらの使い方について数学的に説明することが重要です。また、解決の方法として表現が不十分な説明を取り上げて、問題解決の見通しを共有した場面などを振り返りながら、十分な説明ができる学習の機会を大切にしていきます。

「R6年度【中学校数学】調査問題



生徒質問紙調査からみられた子どもの姿より

大台町の子どもたち

学校に行くのは
楽しい

91.4%

(全国 87.3%)

自分には
よいところがある

87.9%

(全国 83.3%)

人が困っている時
進んで助けている

92.4%

(全国 90.1%)

普段の生活の中で、
幸せな気持ちになることは
どれくらいありますか

96.6%

(全国 89.8%)

地域や社会をよくする
ために何かしてみたい

77.6%

(全国 63.9%)

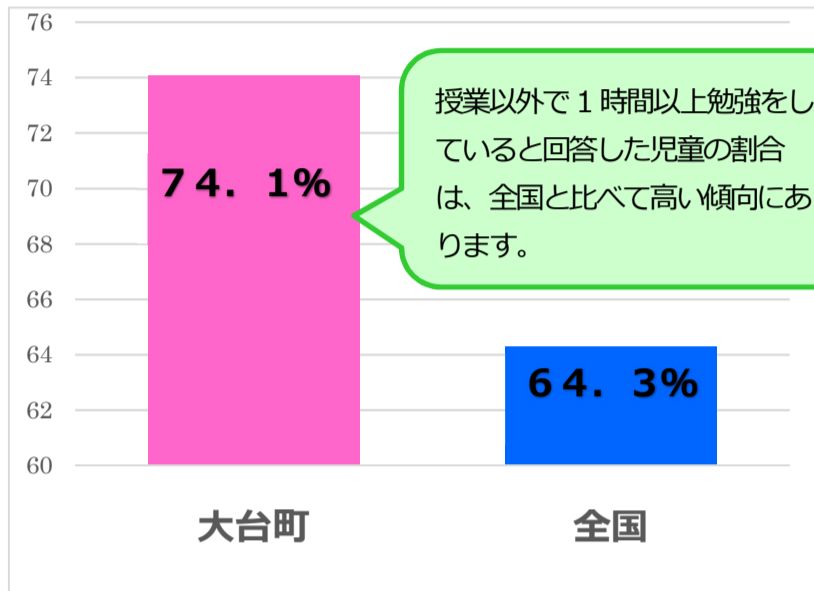
*子どもたちが生徒質問紙で肯定的に
回答した割合が高かった主な設問より

生徒質問紙調査からは、多くの子どもたちにとって学校が安心できる場所となっていることがうかがえます。また、人のために、地域のために何かできることはないかと考えていることもわかります。これまで道徳教育や特別活動の充実、9年間を見通した人権学習、豊かな自然環境を生かした体験活動をはじめ、学校教育活動全体を通じて子どもたちの豊かな心をはぐくむ取組を進めてきた成果であるといえます。今後もさらに、子どもたち一人ひとりのよさを認めたり、達成感を味わわせたりする教育活動を進め、子どもたちが将来に、夢や希望を持ち、その実現に向かって自信を高めていけるよう努めていきます。大台町の子どもたちは、保護者や地域の皆様に支えられ成長しています。今後も、保護者や地域と連携しながら、大台町ならではの特色ある学校づくりを進めていきます。

ご家庭でお願いしたいこと

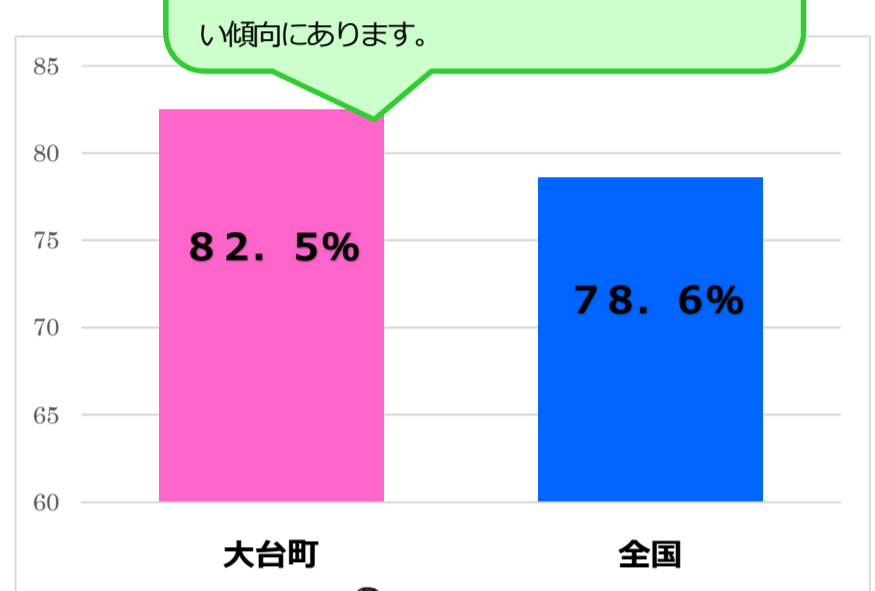
Q 学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間、勉強をしていますか

【表1】



Q わからないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか

【表2】



家庭で自主的に学習する習慣を身につけましょう



【表1】からわかる通り、「授業以外で1時間以上勉強をしている」と回答した生徒の割合は、74.1%で全国平均と比べて高い傾向にあり家庭で学習する習慣が定着しているといえます。また、【表2】からわかる通り、「わからないことやくわしく知りたいことがあったときに自分で学び方を考え工夫することができている」と回答した生徒の割合は、78.6%で全国平均と比べて高く、肯定的に回答した生徒ほど国語・数学の正答率が高い傾向にありました。毎日、繰り返しの練習や復習、予習に取り組むことが、基礎・基本の確実な定着につながります。また、自分にとって必要な学習が何なのかを考え、計画的に学習に取り組むことが大切です。子どもたちが毎日、家庭での学習に取り組むことができるよう励ましの声かけや集中して取り組める環境づくりにご協力をお願いします。

大台町では、自立的な学習者を育てるために小中9年間を見通した「大台町家庭学習系統表」を作成し、それをもとに各校が「家庭学習の手引き」を子どもたちと保護者に配付しています。また、自主学習の取組もすすめています。「家庭学習の手引き」をご活用いただき、お子さんと一緒に家庭学習の取組についてふりかえっていただきますようお願いいたします。

地域、保護者のみなさまへ

大台町では、学校と教育委員会が一体となって、子どもたちの「確かな学力」「豊かな心」の育成を目指して取り組んでいきます。学力向上の中心となるのは、「授業づくり」です。本調査の結果を学校と共有し、子どもたちが「学ぶ喜び」「わかる楽しさ」を実感できるよう授業改善を進めていきます。今後も、家庭、地域のご理解、ご協力のもと子どもたちの成長を支えていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。